

短 報

富山湾における鯨類の記録 (2017年)*

南部 久男¹⁾, 田島 木綿子²⁾, 山田 格²⁾

¹⁾ 富山市科学博物館 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

²⁾ 国立科学博物館動物研究部

305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

Records of marine mammals in Toyama Bay, Sea of Japan, 2017.

Hisao Nambu¹⁾, Yuko Tajima²⁾
and Tadasu K. Yamada²⁾

¹⁾ Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan

²⁾ National Museum of Nature and Science, Department of Zoology, 4-1-1 Amakubo, Tsukuba-shi, Ibaraki 305-0005, Japan

はじめに

富山湾(富山県側)の鯨類や鰭脚類については筆者らにより, 2001年から漂着調査等が継続的に行なわれている(南部, 2009; 南部ら, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2010, 2011, 2012, 2013, 2015, 2016, 2017; 関ら, 2005). 本稿では2017年に富山湾で確認された鯨類について報告する.

方法

鯨類の漂着は, 情報を得次第, 現地で体長計測や欠損状況の確認, 写真撮影等を行った.

結果と考察

2017年に富山湾で確認した鯨類はマイルカ科のカマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens* の目撃2例, 同科ハナゴンドウ *Grampus griseus* の漂着が1例1個体, アカボウクジラ科オウギハクジラ *Mesoplodon stejnegeri* の漂着が1例1個体であった. これらの記録を, (1)発見日又は目撃日, (2)発見者又は観察者, (3)場所・状況, (4)計測値と状態, の順に記す.

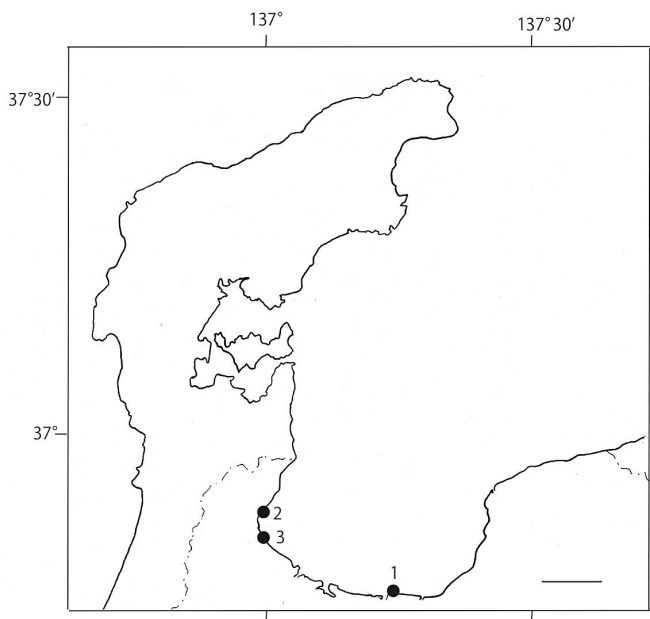


図1. 鯨類の確認地点 1, 富山市岩瀬; 2, 氷見市阿尾; 3, 氷見市島尾. スケールバーは10 km.

1. カマイルカ *Lagenorhynchus obliquidens*

1 例目

(1) 2017年3月18日

(2) 南部による目撃

(3) 富山市岩瀬沿岸で(図1-1), 14:44~15:50頃にかけて, 数頭のイルカが潜水と浮上を繰り返していた. 背ビレの形と模様からカマイルカと同定した(図2上). 背ビレの形状から少なくとも4頭識別できた. そのうち1頭は背ビレの上半分が欠損していた(図2下). 岸壁から最も近いところではテトラポッドから20~30mのところまで潜水, 浮上を繰り返していた. 突堤



図2. 富山市岩瀬沿岸に出現したカマイルカ(上, 背ビレ, 胴部の模様がカマイルカの特徴を備える. 下, 背ビレの先端が欠損しているカマイルカ.

* 富山市科学博物館研究業績第531号

では、釣り人がマアジを釣っており、カマイルカは、マアジ等をエサにするため沿岸に近づいてきたと思われる。

2 例目

- (1) 2017年4月14日
- (2) 南部による目撃
- (3) 1例目と同一場所 (図1-1)。富山市岩瀬沿岸で、15:15～15:20頃にかけて、数頭のイルカが潜水と浮上を繰り返していた。背ビレの形と模様からカマイルカと同定した。本例は沖合での目撃で、1例目のように岸に近づくことはなかった。

2. ハナゴンドウ *Grampus griseus*

- (1) 2017年7月31日
- (2) 朝、市民発見
- (3) 氷見市阿尾の砂浜 (図1-2)。波打ち際に横たわる。
- (4) 7月31日、南部久男、広瀬直樹氏により現地調査が行われる。
ハナゴンドウのオス。体長227cm。
- (5) 右胸ビレは欠如していた (図3下)。腹部に見られた長さ30 cm ほどの切れ込みは人為的なものと思われた (図3上)。

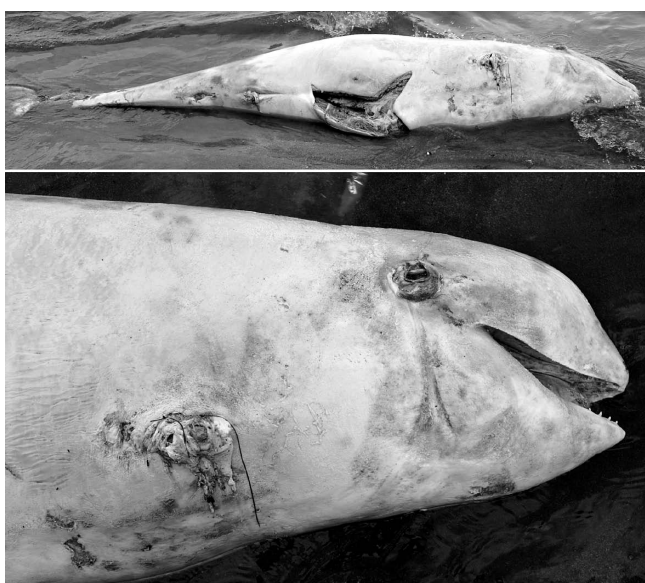


図3. 氷見市漂着ハナゴンドウ。
上, 胴部 (腹側); 下, 頭部 (右側)。

3. オウギハクジラ *Mesoplodon stejnegeri*

- (1) 2017年4月17日
- (2) 14:30, 海岸を散歩中の市民が発見
- (3) 氷見市柳田の砂浜 (図1-3)。波打ち際に死体が横たわる (図4)。新鮮な個体で、頭部から胸ビレ周辺の胴部にかける丸いシミ状のものが散在していた。尾部

腹側にも同様のものが見られた。しみ状の円形の一部に縁が赤いものも見られた。

- (4) 4月18日9:30～12:30, 現地調査。体長389 cm。オス。
筆者らと協力者6名により剖検が行われた。

2017年は3種の鯨類、カマイルカとハナゴンドウ、オウギハクジラが確認されたが、3種とも富山湾では既知種である。

カマイルカは筆者らの調査では富山湾に最も多く来遊するイルカであり、12月から6月の範囲で記録され、今回の記録もこの範囲に含まれる。確認された同じ海域では、2017年3月22日、4月5日にも10頭ほどの群れが観察されており (桃花鳥の会, 2018), 2016年はこの海域には少なくとも3月下旬から4月上旬にかけカマイルカが来遊していたと思われる。

ハナゴンドウは、富山湾では、黒部市 (2004年6月15日, 死体漂着, 体長252 cm), 氷見市 (2006年6月15日, 死体漂着; 2007年6月17日死体漂着, 体長201.5 cmのオス), 魚津市 (2011年3月14日, 体長201.7 cmのオス), 射水市 (2016年6月11日, 体長273 cm) の5例あり (南部ら, 2005, 2007, 2008, 2012, 2016; 田島ら, 2012), 今回の記録を合わせて6例の漂着が記録された。近年の富山湾ではハナゴンドウはカマイルカに次いで漂着記録の多いイルカである。

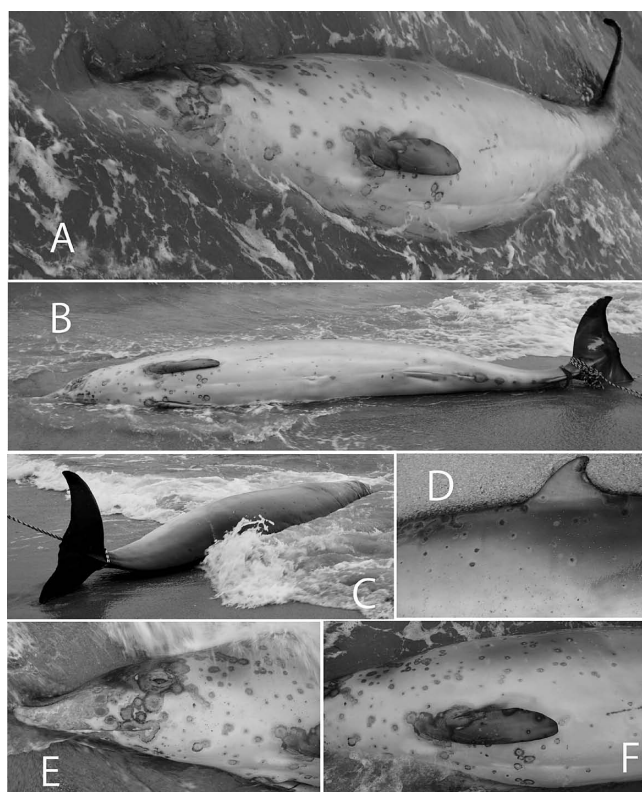


図4. 氷見市漂着オウギハクジラ。A, 頭部～尾部 (左側)。B, 頭部～尾部 (腹側)。C, 尾部～頭部 (左側)。D, 背ビレ (左)。E, 頭部 (左)。F, 胴部前半 (左)。

オウギハクジラは、太平洋側に比べ日本海での漂着が多い(石川, 2013)。富山湾(石川県側及び富山県側)で11例11個体の漂着や混獲があった(石川県側; 珠洲市, 19980303, ♂1個体; 同市, 19961020, ♂1個体; 同市 20010303, ♀1個体; 同市, 20050323, ♀1個体; 七尾市, 20000404, ♂1個体; 同市, 20010419, ♀1個体; 内浦町, 20050505, ♂1個体; 能都町, 20020429, ♀1個体。富山県側; 魚津市, 19980407, ♀1個体; 新湊市, 19920515, ♂1個体; 氷見市, 20050505, 不明1個体)。石川県側で8例8個体, 富山県側3例3個体と石川県側での記録が多く, 今回の事例で富山県側で4例目4個体となった。今までに報告された計11例11個体の確認された月は, 2月(1例), 3月(2例), 4月(4例), 5月(3例)・10月(1例)であり, 今回の事例も確認が多かった4月の記録であった。

謝辞

氷見土木事務所にはハナゴンドウの調査にご協力いただいた。氷見市海浜植物園, 同園の関谷秀勝氏, 滝口恵子氏, 氷見市教育委員会の廣瀬直樹氏, 関東雄氏(氷見市), 白石俊明氏(立山カルデラ砂防博物館), 関谷伸一氏(新潟県立看護大学)にはオウギハクジラの調査にご協力いただいた。皆様に心よりお礼申し上げます。

文献

石川 創・後藤睦夫・茂越敏弘, 2013. 日本沿岸のストランディングレコード(1901~2012). 下関鯨類研究室報告No.1, 314pp.

南部久男, 2009. 富山湾における鯨類の記録(2008). 富山科学博物館研究報告, (32):115-116.

南部久男・稲村 修・田島木綿子・倉持利明・山田 格, 2002. 富山湾における鯨類(Cetaceans)の記録(2001年). 富山科学文化センター研究報告, (25):129-132.

南部久男・石川 創・山田 格・台藏正一・大田希生, 2007. 富山湾における鯨類の記録(2006年). 富山科学文化センター研究報告, (30):63-68.

南部久男・石川 創・山田 格・田島木綿子・谷田部明子・台藏正一・大田希生, 2008. 富山湾における鯨類の記録(2007年). 富山科学文化センター研究報告, (31):99-102.

南部久男・真柄真実・栗原 望・山田 格・関 東雄・台藏正一・石川雄士, 2010. 富山湾における鯨類の

記録(2009年). 富山科学博物館研究報告, (33):105-108.

南部久男・西岡 満・関谷伸一・山田 格・太田希生, 2004. 富山湾における鯨類の記録(2003年). 富山科学文化センター研究報告, (27):75-78.

南部久男・西岡 満・田中 豊・太田希生, 2003. 富山湾における鯨類・ウミガメ類の記録(2002年). 富山科学文化センター研究報告, (26):145-147.

南部久男・関 東雄・真柄真実・山田 格・太田希生・藤田将人, 2011. 富山湾における鯨類の記録(2010年). 富山科学博物館研究報告, (34):141-144.

南部久男・関 東雄・田島木綿子・山田 格, 2016. 富山湾における海棲哺乳類の記録(2015年). 富山科学博物館研究報告, (40):99-101.

南部久男・関 東雄・山田 格, 2015. 富山湾における海棲哺乳類の記録(2014年). 富山科学博物館研究報告, (39):55-60.

南部久男・田島木綿子・新井上巳・山田 格・田中 豊・大田希生, 2005. 富山湾における鯨類の記録(2004年). 富山科学文化センター研究報告, (28):91-94.

南部久男・田島木綿子・山田 格, 2012. 富山湾における鯨類の記録(2011年). 富山科学博物館研究報告, (35):103-105.

南部久男・田島木綿子・山田 格, 2013. 富山湾における鯨類の記録(2012年). 富山科学博物館研究報告, (37):109-110.

南部久男・田島木綿子・山田 格, 2017. 富山湾における鯨類の記録(2016年). 富山科学博物館研究報告, (41):67-70.

南部久男・山田 格, 2006. 富山湾における鯨類の記録(2005年). 富山科学文化センター研究報告, (29):113-114.

関 東雄・南部久男・山田 格・石川 創, 2005. 富山湾の海上における鯨類の目撃記録. 富山科学文化センター研究報告, (28):113-122.

田島木綿子・山田 格・南部久男, 2012. 富山県魚津市に漂着したハナゴンドウ(*Grampus griseus*) 富山科学博物館研究報告, (35):107-108.

桃花鳥の会, 2018. 富山県の脊椎動物の記録(2016). 富山科学博物館研究報告, (42):119-131.

